令和７年度とよかわデジモニ第４回アンケート結果

概要

■アンケート対象者

令和７年度とよかわデジモニ モニター100人

■回答期間

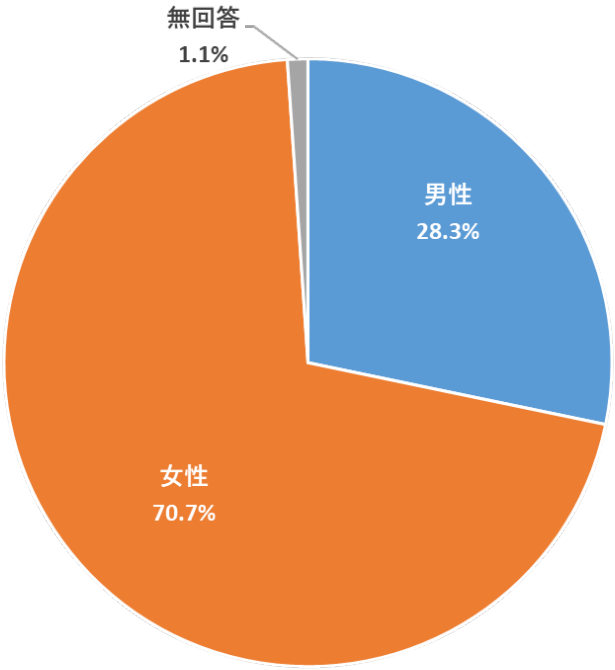
令和7年10月10日（金）から10月24日（金）まで

■回答者数（回答率）

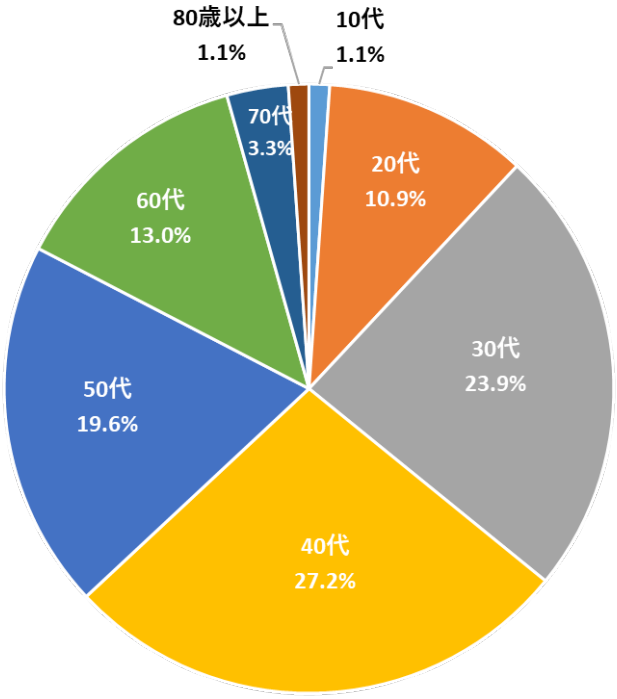
92人（92%）

■回答者の内訳

性　別	回答数	%
男性	26	28.3
女性	65	70.7
無回答	1	1.1
合計	92	



年　代	回答数	%
10 代	1	1.1
20 代	10	10.9
30 代	22	23.9
40 代	25	27.2
50 代	18	19.6
60 代	12	13.0
70 代	3	3.3
80 歳以上	1	1.1
合計	92	



「とよかわボランティア・市民活動センターだよりに関するアンケート」

目的

豊川市では、市民活動の拠点施設として、とよかわボランティア・市民活動センタープリオを設置し、ボランティアや市民活動に関する情報の提供等を行っています。その一環として、年３回、とよかわボランティア・市民活動センターだよりを発行し、情報の発信をしています。今回、アンケートを実施し、情報誌のさらなる充実を図るための参考とします。

担当課の総論

「とよかわボランティア・市民活動センターだよりを読む頻度」（問１）について、「毎号読んでいる」が19.6%、「たまに読んでいる」が33.7%で、これらを合わせた“読んでいる”が53.3%という結果でした。また、「発行していることを知らなかった」が37.0%と、前回調査時（令和５年度実施）の33.3%から増加しており、興味・関心を持っていただける内容の充実と周知を図る必要があります。

「とよかわボランティア・市民活動センターだよりの活用」（問４）については、「活用している（3.3%)」、「たまに活用している（14.1%)」、「活用していないが、今後活用しようと思う（56.5%)」という結果で、活用している、活用したいという意見は合わせて73.9%と高い水準となっており、関心の高さが伺えます。一方、「活用していないし、今後も活用しない」は、26.1%でした。

また、「情報量」（問５）で82.6%、「掲載している写真掲載点数」（問６）で90.2%と、いずれも「ちょうどいい」との回答が最も多く、一定の評価が得られています。

そして、「今後、もっと充実させてほしいページ」（問７）として、「お知らせ（表紙のトップ記事)」が２２件、「団体さんにインタビュー」が１１件、「活動紹介コーナー」が３３件、「情報掲示板」が５５件という結果から、市民活動団体の活動紹介やイベント情報の充実を図る必要があります。

その他、「とよかわボランティア・市民活動センターだより」全般に関しても多くのご意見をいただきました。

これらの意見を参考に、多くの方に親しまれる、より充実した情報誌の作成を進めていきます。

市民協働国際課

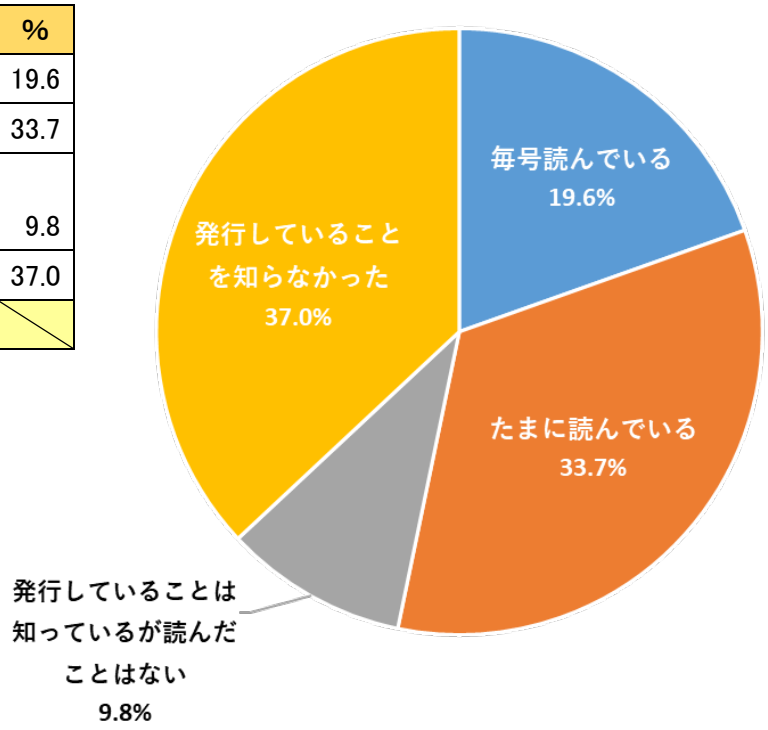
アンケート集計結果

※比率はすべて百分率（%）で表し、小数点第２位を四捨五入して算出しています。このため、合計が100にならない場合があります。

※その他・自由意見については、原則ご記入いただいた原文のまま記載をしていますが、表記誤りなどについては訂正し、アンケート内容と関係ない意見については掲載しない場合があります。

【1】「センターだより」を読んだことがありますか（1つ選択）

項　目	回答数	%
毎号読んでいる	18	19.6
たまに読んでいる	31	33.7
発行していることは知っているが読んだことはない	9	9.8
発行していることを知らなかった	34	37.0
合計	92	

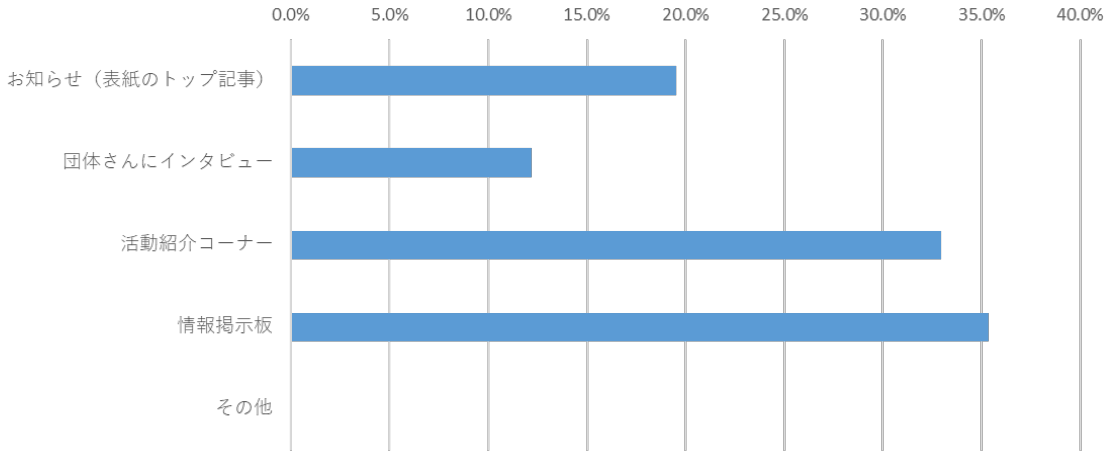


【2】興味・関心を持って読むページ（コーナー）はどれですか（複数回答可）

【1】で「毎号読んでいる」、「たまに読んでいる」を回答した方のみ

（対象者49人）

項　目	回答数	%
お知らせ（表紙のトップ記事）	16	19.5
団体さんにインタビュー	10	12.2
活動紹介コーナー	27	32.9
情報掲示板	29	35.4
その他	0	0.0
	82	

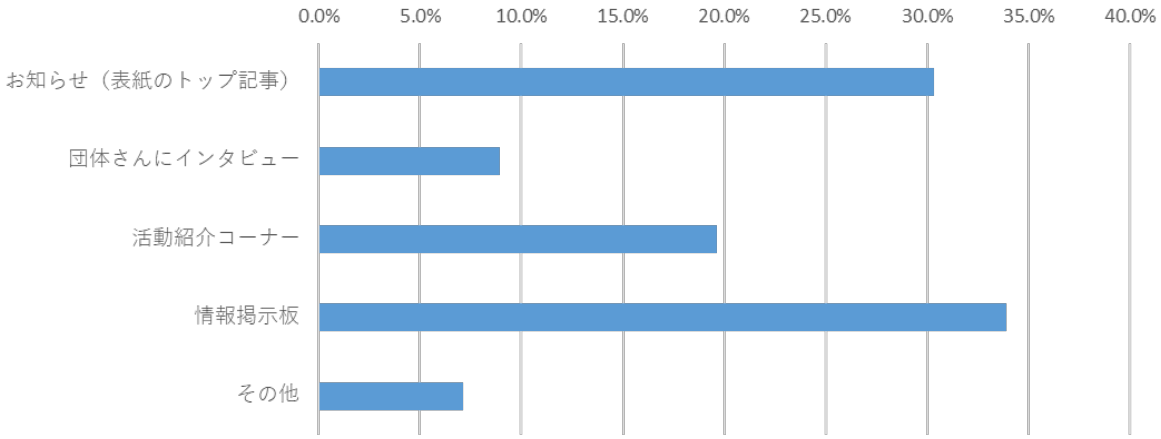


【3】今回、興味・関心を持ったページ（コーナー）はどれですか（複数回答可）

【2】で「発行していることは知っているが読んだことはない」、「発行していることを知らなかった」を回答した方のみ

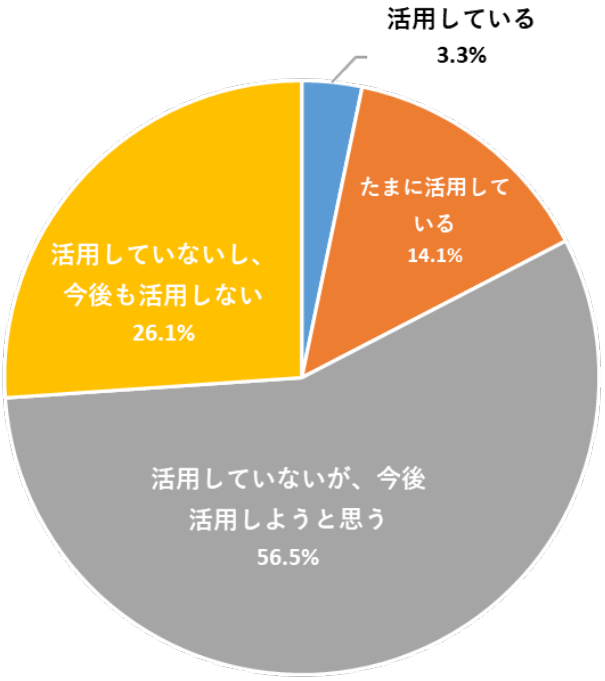
（対象者43人）

項　目	回答数	%
お知らせ（表紙のトップ記事）	17	30.4
団体さんにインタビュー	5	8.9
活動紹介コーナー	11	19.6
情報掲示板	19	33.9
その他 ・特になし ・興味や関心を持ったページはありませんでした。 ・読んでません ・見たことがない	4	7.1
	56	



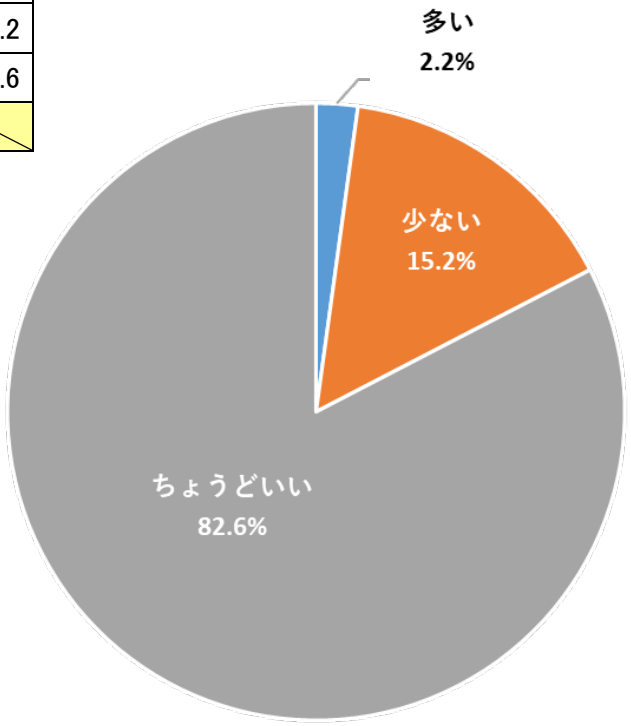
【4】「センターだより」を活用した、または活用しようと思いますか（1つ選択）

項　目	回答数	%
活用している	3	3.3
たまに活用している	13	14.1
活用していないが、今後活用しようと思う	52	56.5
活用していないし、今後も活用しない	24	26.1
合計	92	



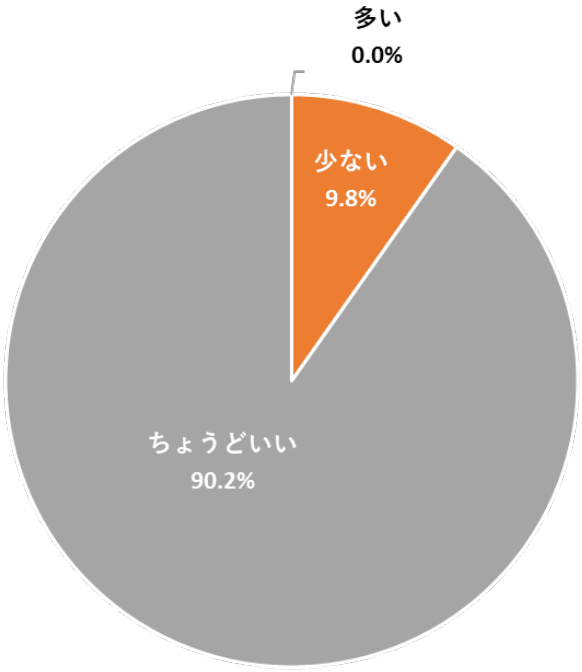
【5】全体の情報量についてどう思いますか（1つ選択）

項　目	回答数	%
多い	2	2.2
少ない	14	15.2
ちょうどいい	76	82.6
合計	92	



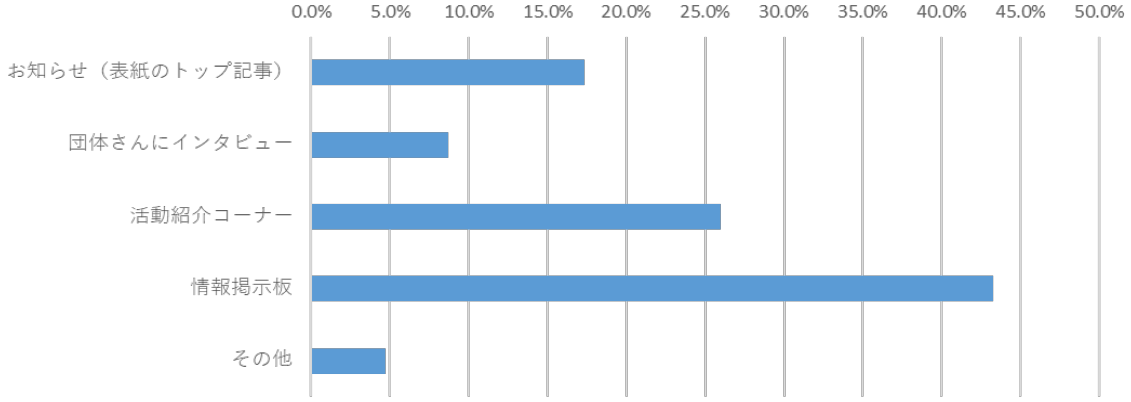
【6】掲載している写真掲載点数ついてどう思いますか（1つ選択）

項　目	回答数	%
多い	0	0.0
少ない	9	9.8
ちょうどいい	83	90.2
合計	92	



【7】今後、もっと充実させてほしいページがあれば教えてください（複数選択可）

項目	回答数	%
お知らせ（表紙のトップ記事）	22	17.3
団体さんにインタビュー	11	8.7
活動紹介コーナー	33	26.0
情報掲示板	55	43.3
その他 ・特になし ・興味や関心を持ったページがなかったので、特にありません。 ・特になし。今くらいのボリューム感がちょうどいいと感じたため。 ・各町内会の活動やイベント紹介などもあって良いのではないかと思う ・分からないです ・分からない	6	4.7
	127	



【8】「センターだより」についてのご意見があれば教えてください

広報はいつもしっかり目を通すようにしているが、センターだよりは全く気がつかなかった。社協だよりは広報に挟まっているし、1枚ピラッと入っているだけなので、存在感がなかった。字が小さくて、あまり重要な情報とも思えなかったので、ほとんど読んだことがないのは、もったいないです、せっかく一生懸命作ってくださるのに、私と同じように思う人は多いのではないかな。センターって、どこのセンターなの？って思ったくらいあまり活動を知りませんでした。残念ですよね。
誰に向けて何を伝えたいか、というのがよくわかりませんでした。私は興味や関心を持つことがありませんでしたが、伝えたい人に対して必要な情報を伝えられているのであれば良いのではないかと思いました。
結果報告も良いですが、これから予定のイベント事の紹介記事を増やしてほしいです。
ボランティアに興味がない人は、目を通すどころか全く読まないと思います。社協のお知らせは記憶にありましたが、ボランティア活動については、そんなのあったかな程度の認識でした。
いつも広報に挟まれて配布されてくるので、何気なく読んでいました。社協だよりに掲載されていた講座に参加したことで、現在ボランティア活動に参加しています。それで、ボランティア活動の支援をしているセンターや、社協のことが少しずつ分かってきました。一般の方は、私と同様だと思います。友人に説明して何とか理解してもらえる状況です。時には紙面を増やして、もっと理解されるとよいと思われます。今回の「えがおフェス」のお知らせも、もう少し詳しくお知らせできれば、多くの方に周知してもらえると思います。
イベント情報はありがたい
購読希望者へ配布もれが無いようにして欲しい
町内会とも連携してほしい
お知らせのデザインにつきまして、現在のものは少し落ち着いた印象を受けるため、もう少し明るくカラフルな雰囲気にしていただけると、より多くの方に親しみを持って手に取っていただけるのではないかと思います。また、もし現在のページ数のままで構成される場合は、掲載する団体数を少し絞っていただき、その分一つひとつの団体の情報をより充実させていただけると嬉しいです。写真や文字も少し大きめにしていただけると、読みやすさが増すかと思います。ご検討よろしくお願いいたします。
あまり目にすることがありませんでした。いろいろな内容があり読んでみたいです。広報にあれば読みやすいと思います。
「センターだより」についての意見ではないですが、今回の質問「【4】「センターだより」を活用した、または活用しようと思いますか」の質問主旨が分かりません。「センターだより」に掲載してもらうことを”活用”というのか、「センターだより」冊子を知人等に閲覧させることを”活用”というのか。もっと的確な表現で質問設定すべきですね。
まだまだ知らない団体(活動内容)が沢山あるのだと実感します。
特にありません
現在のままで良いと思います
個人として「とよかわボランティア・市民活動」の参加や発足を行動した時の所感です。 ①行政(施設利用、広報制限、補助金等)の敷居や壁が高く感じました。⇒言葉選び、文章形式など行政側の約束事が障壁、形式が理解できれば対応できる事がわかりました。新たに行動する人達に必要なのは「行政の約束事」の取り扱い説明を「センターだより」に掲載する必要があると考えています。

②「とよかわボランティア・市民活動」の活動が順調に行えている影に、特定政党の議員の協力がありました。⇒特定政党の議員の協力が影になっている状態が、「旧統一教会(家庭連合)問題」や「右翼保守活動(愛知の芸術祭展示中止で波紋　表現の自由侵害と抗議)」を生んだ温床と考えています。なので、各豊川市の議員の感想を「センターだより」に掲載する必要があると考えています。

「介護の備えに関するアンケート」

目的

豊川市では、高齢化が進む中、いつ始まるかわからない介護に備えるため、介護保険制度を当事者として活用する方、家族のために活用する方、高齢家族がいる方に対してそれぞれに必要な情報を届ける「これから介護ソナエ隊事業」を実施しています。今回、「老後に備えるためのアンケート」を実施し、今後の情報発信の参考とします。

担当課の総論

「介護をした経験や今後家族などを介護する可能性」（問１）について、「はい」が（73.9%）という結果でした。

「あなたや家族の老後のために必要だと思う情報は何ですか」（問２）について、「入所できる施設」（80.4%）、「介護にかかる費用」（77.2%）、「介護保険」（64.1%）という結果となり、介護保険や施設に関心が高いことがわかりました。

「高齢の方に対して伝えるのが難しいと思うこと」（問３）について、「免許返納を勧めること」「相続や葬儀、お墓の話をすること」「施設入所を勧めること」「認知症の検査を勧めること」「現在の経済状況を確認すること」が上位となりました。

「理想の高齢者像を実現するために必要なこと」（問５）について、「健康」（88.0%）、「お金」（77.2%）、「生きがい」（34.8%）という結果でした。

「現在、将来のために備えていること」（問６）については、「貯金・投資」（64.1%）、「健康づくり」（64.1%）、「家族との対話」（39.1%）という結果でした。

「日常生活で気になる情報をどのように入手しているか」（問７）について、「インターネット」（88.0%）、「友人・知人」（44.6%）という結果でした。

これらの意見を参考に、これから介護ソナエ隊事業として将来の備えに役立つ情報を発信していきます。

介護高齢課

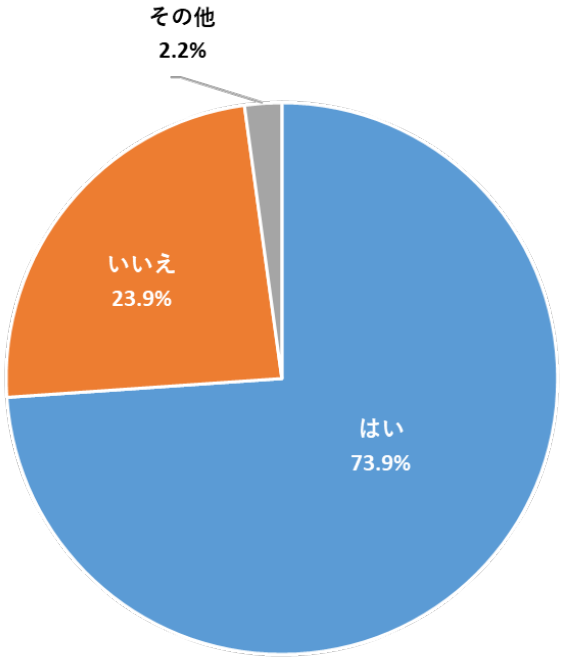
アンケート集計結果

※比率はすべて百分率（%）で表し、小数点第２位を四捨五入して算出しています。このため、合計が100にならない場合があります。

※その他・自由意見については、原則ご記入いただいた原文のまま記載をしていますが、表記誤りなどについては訂正し、アンケート内容と関係ない意見については掲載しない場合があります。

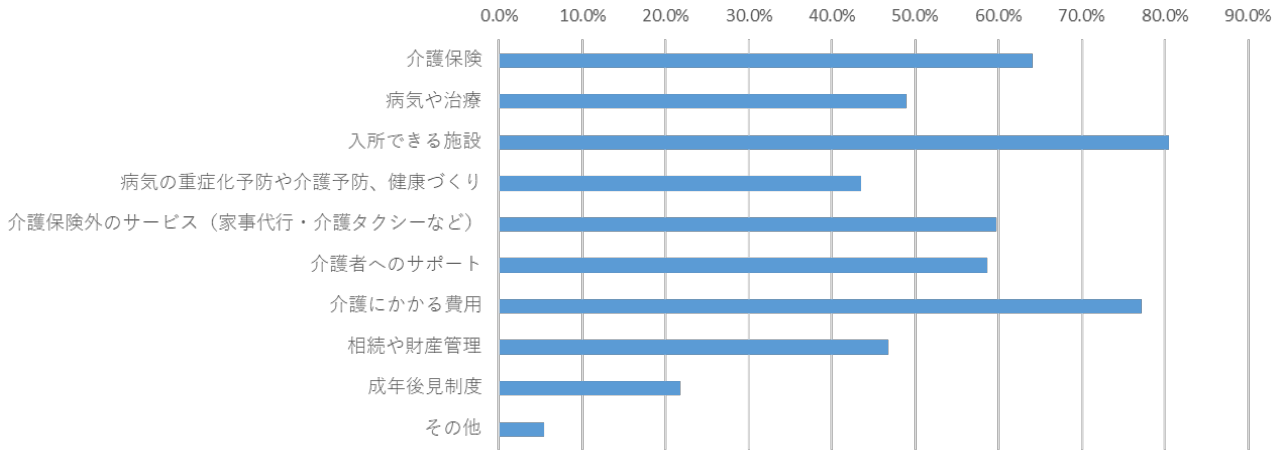
【1】介護をした経験や今後家族などを介護する可能性はありますか（1つ選択）

項目	回答数	%
はい	68	73.9
いいえ	22	23.9
その他 ・まだわかりません ・30 年くらい前に、祖母が寝たきりの痴呆症になりました。家には、母と、70 歳過ぎのリウマチの叔母が来て、介護をしました。私は直接、介護をしなかったけれど、心労が絶えなかったです。また、私は介護をしてなかったから、介護の大変さなど、わからないと思われて、かなり、親戚や他人から、言いたい放題されました。トラウマになっています。私と似た立場の人もいると思われます。	2	2.2
合計	92	



【2】あなたや家族の老後のために必要だと思う情報は何ですか（複数選択可）

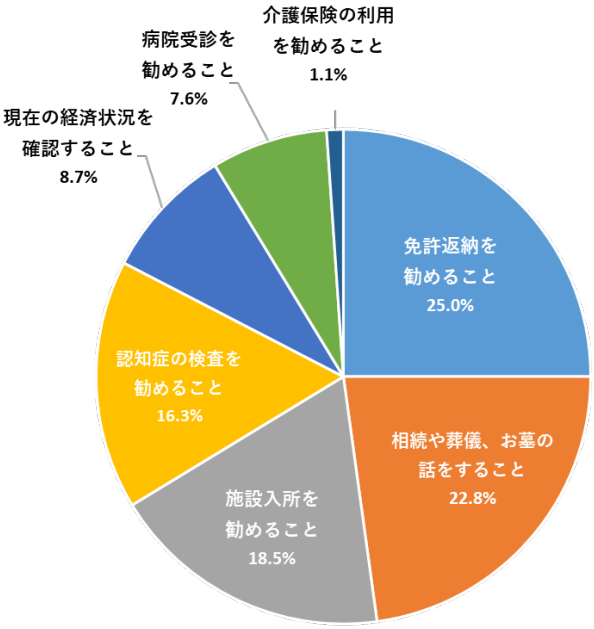
項目	回答数	%
介護保険	59	64.1
病気や治療	45	48.9
入所できる施設	74	80.4
病気の重症化予防や介護予防、健康づくり	40	43.5
介護保険外のサービス（家事代行・介護タクシーなど）	55	59.8
介護者へのサポート	54	58.7
介護にかかる費用	71	77.2
相続や財産管理	43	46.7
成年後見制度	20	21.7
その他 ・準備を促す働きかけ。 ・各種手続きの簡略化や分かりやすさ。相続や財産管理（保険、株）、成年後見制度が難しすぎる。 ・介護者以外の、同居人へのサポートも必要と思われます。 ・そもそも制度等何もしらないので、介護をするにあたり初めて関わる人向けに知識として、何かわかりやすいリーフレットがあれば助かる。既にあるのであれば周知が必要。 ・もともと地方行政が管轄していた話が、1990 年代から国に所轄移動を期に行政的破綻(棄民、制度崩壊)している。そして、地方交付金の縮小も。これらを理解した行政職員と市政議員の育成が必要。行政や市政議員の落ち度が「介護の不安」を生んでいるので、「これから介護ソナエ隊事業」には、「行政や市政議員の落ち度」を追求し解決する決意表明が必要と考える。	5	5.4



【3】高齢の方に対して伝えるのが難しいと思うことは何ですか

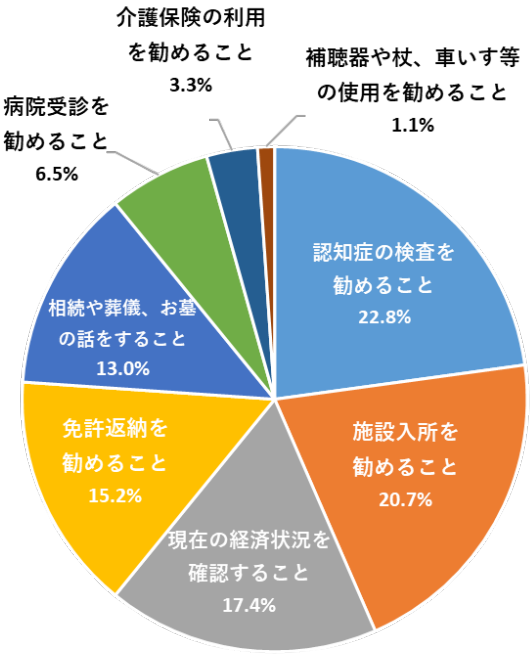
第1位

項目	回答数	%
免許返納を勧めること	23	25.0
相続や葬儀、お墓の話をすること	21	22.8
施設入所を勧めること	17	18.5
認知症の検査を勧めること	15	16.3
現在の経済状況を確認すること	8	8.7
病院受診を勧めること	7	7.6
介護保険の利用を勧めること	1	1.1
補聴器や杖、車いす等の使用を勧めること	0	0.0
わからない	0	0.0
合計	92	



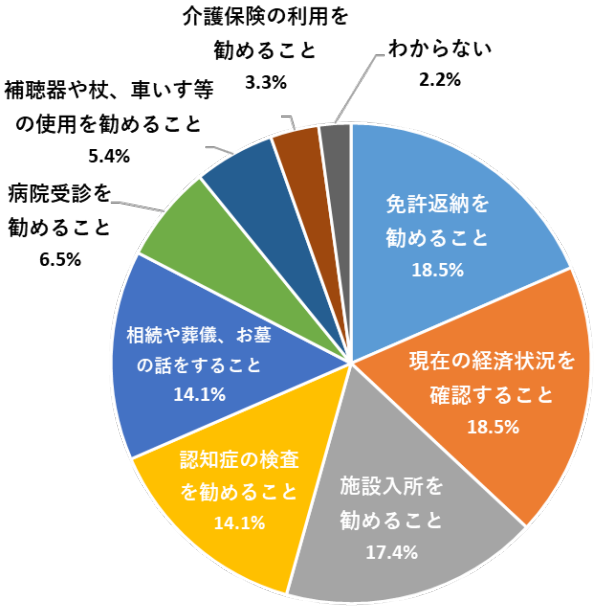
第2位

項目	回答数	%
認知症の検査を勧めること	21	22.8
施設入所を勧めること	19	20.7
現在の経済状況を確認すること	16	17.4
免許返納を勧めること	14	15.2
相続や葬儀、お墓の話をすること	12	13.0
病院受診を勧めること	6	6.5
介護保険の利用を勧めること	3	3.3
補聴器や杖、車いす等の使用を勧めること	1	1.1
わからない	0	0.0
合計	92	



第3位

項目	回答数	%
免許返納を勧めること	17	18.5
現在の経済状況を確認すること	17	18.5
施設入所を勧めること	16	17.4
認知症の検査を勧めること	13	14.1
相続や葬儀、お墓の話をすること	13	14.1
病院受診を勧めること	6	6.5
補聴器や杖、車いす等の使用を勧めること	5	5.4
介護保険の利用を勧めること	3	3.3
わからない	2	2.2
合計	92	



【4】あなたの理想の高齢者像を教えてください

人の手を借りずに元気に生活すること
ピンピンコロリ
家族や周りの人に迷惑をかけない
自分は子供の世話にはならずに、いつまでも元気で、ある日突然、ポックリ逝けるっていうのが理想です。誰でもそうですよね。祖母がそうでした。前日までモリモリご飯を食べて、畑仕事して。朝、布団の中で眠るように亡くなっていた。まさに理想です。だから、健康で、いつまでも自分で身の回りのことができるようにいまは筋トレ、脳トレ頑張っています。
自分のことは自分で行う
死ぬまで健康でいること
不謹慎かもしれませんが、ピンピンコロリが理想の高齢者像であり、私もそうありたいと思います。
周りにも自分にも優しくできる
お金があり自立した生活が送れる
若い世代に迷惑をかけない
動ける身体を維持し、大病を患ったときには過度な延命治療をしない。
伊能忠敬、タモリさん

60 代には免許返納をし、自分でどんな施設に入りたいかを考える。残された人が困らないように終活をして子供や親戚が知っておくべき情報は残しておく。
対話が出来る。
お金に困らない高齢者
死ぬまで健康で自分の足で生活したいと思う
全て1人で出来ること、出来なければあっさり死にたい
ピンピンコロリ
元気でコロっと行きたいし、子供に迷惑かけたくないです。
ぴんぴんころり
自立ができている
死ぬ直前まで、自分自身で生活をすることができるのが理想ではないかと思います。
ピンピンしている
身体的に衰えても、いつまでも明るく日常的な話ができる状態が維持できている状態。
健康寿命が長く、介護されることなく天寿を全うすること。
年齢を重ねても、自分のことができるような体を維持できること。回りの意見を聞く柔軟な思考をもちつづけること。
パートくらいの時間帯で仕事があり、社会とのつながりがある。植物や野菜などを育てて、自足自給ができる。自分のことが自分でできる。身体的に支えてくれる人が近くにいる。（施設、家族など）
趣味や生きがいを持っている
健康で活動的、自ら好きなことをして生活を楽しんでいる
家族に迷惑を掛けず生活したい
長生きしすぎず、次の世代に負担をかけない
公的サービスを利用しながら自助自立を目指す。子供達に負担をかけないように生活できること。
できるだけ自分で自分の身の回りのことができる高齢者
健康寿命を伸ばし元気で他人の助けを借りずに生活をし、自分の楽しみを見つけてそれに打ち込む高齢者。
ぴんぴんころり
サポートが充実
介護利用に備えた蓄えがある。
家族に経済的な負担はかけない。趣味や目標があって生き生きしている。
入所できる（維持）できるだけのお金を子供に残す。健康で、家族に迷惑をかけない。
周りに迷惑をかけない。自分で出来る事はやる。正常性バイアスがかけてくると思うので、若い人の意見をきく。
身の回りのことが自分でしっかりとできること
死亡したときの話や財産分与など決めておくこと。自分は老害にはならないように意識すること。他の方の善意（年寄り扱い）には素直にありがとうと言えること。老いを認め、傲慢にならないこと。

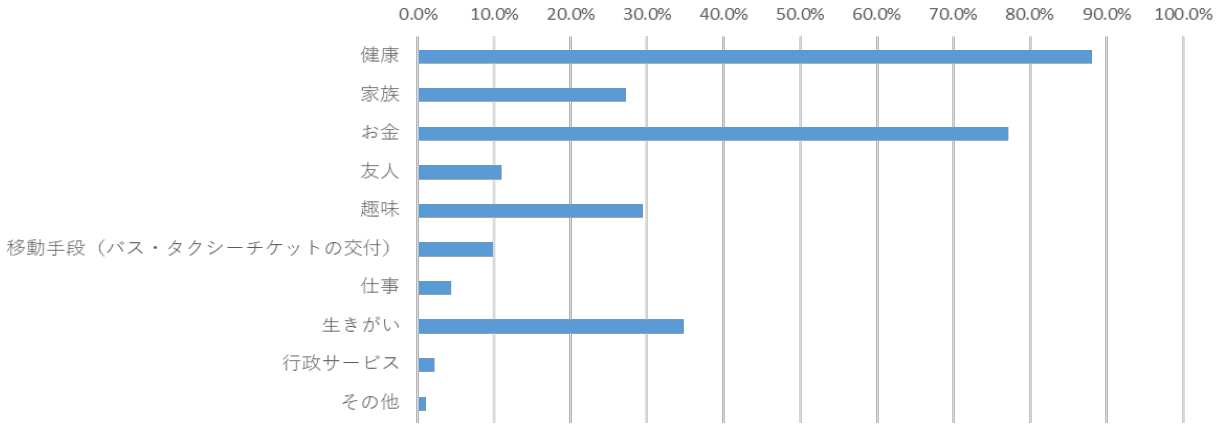
介護が必要であれば自ら施設、サービスを決める。
入院などが必要になるまでは自分に必要なことは大体自分でこなせる状態を維持できること。
家族に負担をかけず生活できる。介護保険など、利用できるサービスは、どんどん利用する。自宅での介護負担が大きくなった場合は、施設に入所する。
健康で一人で最低限の生活ができること
健康で自分の事は自分できること
待ちなし、経済的負担なしで施設に入れること
生きる 本当の目的を知って 周りの人達と仲良く元気に暮らす。
自分のことは自分で出来る。家族や知人との交流を大切にする。
健康でボランティア活動ができ 自分のことは自分で出来る。
残す家族のためにも、自分が後期高齢者になる前に以下のことができていると良いと考えます。 ・免許の返納 ・財産や遺言書の整理 ・遺影写真の撮影 ・生活環境の整備 ・信頼できる方への役割分担 ・かかりつけ医を家族に伝える ・植物状態になった場合の意思表示
働かず年金で暮らす。趣味をもち外へ出ていく。頼れるところを知っておくこと。
健康に過ごせていて、できることは自分で行なっていける。できないことはお願いする。
資産があり、介護看護の手厚い高級老人ホームに入居。
健康で生きがいや社会に役立つことや仕事があること。一人でも社会に助けてもらえること。
ドラえもんのび太のおばあちゃん
素直な高齢者
私たち世代とも分かり合えて、柔軟に対応してくれる。 昭和のお堅い考え方に縛られすぎない。 こちらの事情も理解してくれる。
元気に歩けてトイレにいける。
自分が高齢であり、何をするにも不自由があると認識した上で行動が出来、後に残される人へ迷惑をかけないように、身辺整理ができている人。
高齢になっても自分のことは自分でできる体力と精神力を維持した高齢者
友達や一緒に出かけられる人がいて、不自由なく外に出られる。お金を気にせず病院にかかれる。
自分のことは自分でできる高齢者になりたい。できないことをお願いする時は、きちんと感謝の意を伝えるとともに相手の負担にならないように努めたい。
日々の生活を自分できる事
家族に関しては、自分一人で抱え込まず、行政に頼って自分が潰れないようにしたい。自分は、なるべく自分の事は自分でやれたら良いと思います。
ピンピンコロリで健康寿命イコール寿命にする

周りに迷惑をかけない
健康で過ごせる事 家族や友人に囲まれている事 お金に余裕がある事 楽しみや生きがいがある事
孫と元気に遊ぶ。家に引きこもるのではなく、アクティブに動く。
近隣のコミュニケーションを活かして、毎日が楽しく笑顔がたえない老後を過ごしたい。
無いです
・心身共に健康 ・自分がもういいかなというところまで働ける ・趣味がある ・話せる人が近くにいる ・蓄えがある
穏やかに暮らす
余生をポジティブにしたい
素直に人の話を聞ける人
国からの支援が充実していて年金に困らず（納めているのだから）、市からも補助金などのサポートがあると幸い。定期的に運転に問題がないか教習所等でチェックをしたりする義務制度があるといいかと。相続税の税率削減。
子供に頼らず少しでも貯蓄をし、いつまでも自分の足で歩ける体でいたいと思う。
家族との時間を大切にしつつ、いつ自分が亡くなっても後悔しない生き方をする。
できる限り健康で、自立した生活ができること。家族にお世話になるよりも施設などを利用したいです。
いつまでも健康であり子供たち、他人に迷惑をかけずに自らの早い判断で安全安心に生活を送る
健康で動けるうちに、終活も終わらせて、のんびり過ごしてからコロンと逝きたい。
健康でいることが一番ですが高齢であると難しいことです。身体のどこか気にしながら生活するのは苦痛ですが、うまく付き合って色々なことに挑戦することですかね。
・経済的に自立てきていること：日々の生活に係る費用（食費、水道、ガス等）、税金・保険、通院、趣味に係る費用に事欠かないこと。 ・健康的に生活できること：趣味を持つ。仲間がいる。外で活動をする（ウォーキング、山歩き、畑仕事等）こと。
歳をとっても色んな事にチャレンジする高齢者
健康。好きなことをしながら自分の事は自分でできる。難しいところだけ助けてもらいなごら生活できる。お金の不安かない。
やはり、心身共に健康が一番です。事情があって、1 人暮らしの高齢者には、世の中と関われるように、サポートが必要かと思います。
怪我病気をしても排泄までは自分でやりたい。健康寿命を長くしたい。
出来れば金銭面、日常の生活面どちらも極力周りの人に迷惑をかけずに自立した生活を送りたいです。

ピンピンコロリと健康でいられる時間を長くして、最後はなるべく介護される日数は少なくコロリといけるのが理想です。
自分の足で歩くこと。
近所で、不動産管理(法律違反)問題を隠したまま亡くなった高齢者達がいました。再建築不可 7 棟(1 棟はアパート、2 棟未登記、通路幅を勝手に縮小)で意図的工作していました。相続人達が解決できる見通しがたたず途方に暮れています。 以上の体験から、不動産問題が無い人が理想の高齢者像となります。経済的に対しての「理想の高齢者像」は特にありません。経済的に対しては「行政や市政議員の落ち度」なので。
不便でない生活ができること。そのために宅配サービスや高齢者タクシーの充実。

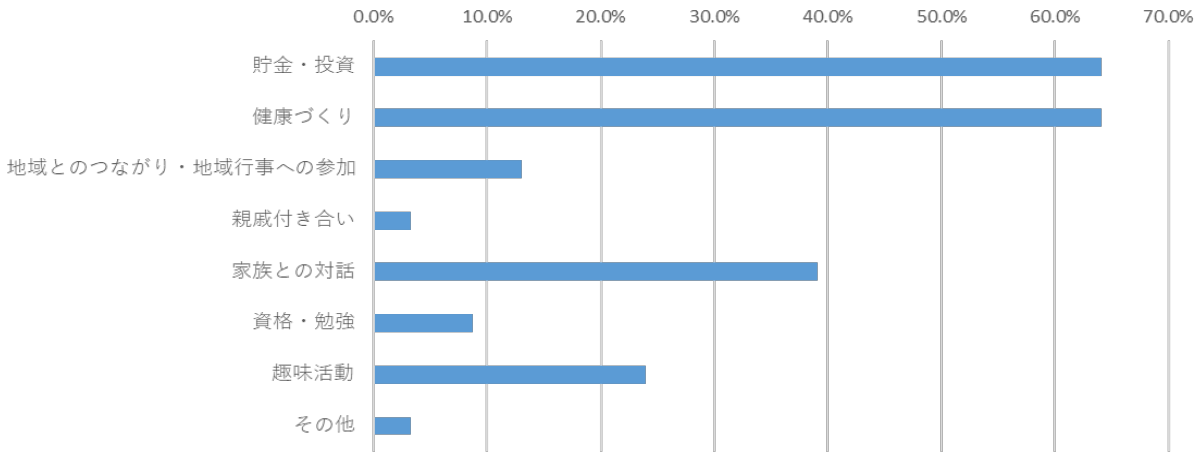
【5】理想の高齢者像を実現するために必要なことは何ですか（複数選択可）

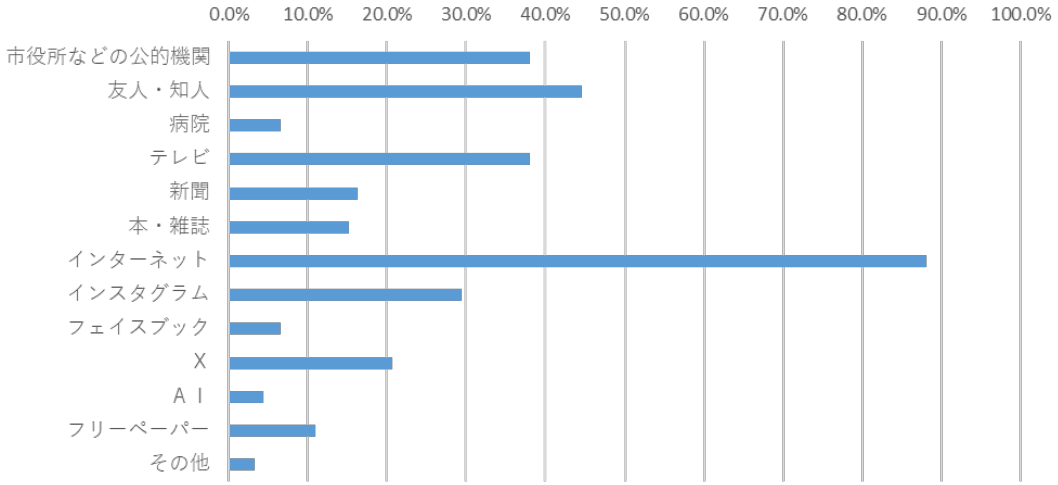
項目	回答数	%
健康	81	88.0
家族	25	27.2
お金	71	77.2
友人	10	10.9
趣味	27	29.3
移動手段（バス・タクシーチケットの交付）	9	9.8
仕事	4	4.3
生きがい	32	34.8
行政サービス ・利用したいと思った時に、すぐに利用できる体制づくり ・経済的に対しての「理想の高齢者像」は特にありません。経済的に対しては「行政や市政議員の落ち度」	2	2.2
その他 もともと地方行政が管轄していた話が、1990 年代から国に所轄移動を期に行政的破綻(棄民、制度崩壊)している。そして、地方交付金の縮小も。これらを理解した行政職員と市政議員の育成が必要。行政や市政議員の落ち度が「介護の不安」を生んでいる。近所で不動産管理(法律違反)問題を隠したまま亡くなった高齢者達がいました。再建築不可 7 棟(1 棟はアパート、2 棟未登記、通路幅を勝手に縮小)で意図的工作していました。相続人達が解決できる見通しがたたず途方に暮れています。 以上の体験から、不動産問題を起した高齢者達が、行政関係者等なので。	1	1.1



【6】現在、将来のために備えていることは何ですか（複数選択可）

項目	回答数	%
貯金・投資	59	64.1
健康づくり	59	64.1
地域とのつながり・地域行事への参加	12	13.0
親戚付き合い	3	3.3
家族との対話	36	39.1
資格・勉強	8	8.7
趣味活動	22	23.9
その他 ・仕事 ・まだない。 ・日々の生活に必死で将来のために備える余裕はありません	3	3.3



【7】日常生活で気になる情報をどのように入手していますか（複数選択可）

項目	回答数	%
市役所などの公的機関	35	38.0
友人・知人	41	44.6
病院	6	6.5
テレビ	35	38.0
新聞	15	16.3
本・雑誌	14	15.2
インターネット	81	88.0
インスタグラム	27	29.3
フェイスブック	6	6.5
X	19	20.7
AI	4	4.3
フリーペーパー	10	10.9
その他 ・広報とよかわ ・図書館等に置いてあるチラシ等 ・市役所に、問い合わせの電話をすると、応対する職員により、回答が違う事がたびたびあります。その為、同じ質問でも、私は、必ず、2 度 3 度、電話します。ネットも参考にしますが、古い情報のままのケースもあります。もう少し、市役所の方でも、配慮をお願いしたいです。	3	3.3